

シンクロナイズドトランポリンにおける遠隔地ペアの可能性

Is it possible to make a pair in different places for Synchronized-trampoline?

1K04A167-4

中田 侑歩

指導教員

主査 中村千秋先生

副査 葛西順一先生

緒言

シンクロナイズドトランポリンには同じチームでペアを組んで一緒に練習を行っているペアと、チームが異なるために一緒に練習をしていないペア(遠隔地ペア)の2種類のペアがある。両ペアとも試合ではシンクロとして成立しているのだが、なぜ一緒に練習をしていないにも関わらず、決勝進出や上位を狙うことができるのかを疑問に感じていた。そして、この疑問点を解決する方法としてシンクロの練習方法に鍵が隠されているのではないかと考えた。そこで、本研究ではシンクロナイズドトランポリンの遠隔地ペアに焦点を当ててアンケート調査を行い、シンクロ練習にどのように取り組んでいるのか、また遠隔地ペアにだけ共通する練習方法があるのかを明らかにすることで、シンクロナイズドトランポリンの遠隔地ペアにおける有効な練習方法を導き出すと共に、遠隔地のペアの可能性を探ることを目的とした。

方法

シンクロナイズドトランポリンの遠隔地ペア成立における実態を調査する目的でアンケート調査を実施した。アンケートは計 12 項目で構成された。本調査の対象者は、第 44 回全日本トランポリン競技選手権大会におけるシンクロナイズド競技に参加している遠隔地の男女ペア 12 組(24 人)と第 35 回全日本ジュニアトランポリン競技選手権大会においてシンクロナイズド競技に参加し、更に各学年の決勝進出(上位 10 組)を果たした遠隔地の男女ペア 13 組(26 人)の計 25 組(50 名)とした。

結果

50 名の対象者のうち有効回答は 45 名(年齢:15.5 $\pm$ 4.6 歳、競技歴:8.9 $\pm$ 4.9 年)であった。また、最も多い遠隔地ペアの組み合わせは石川県ー東京都ペア(9 組)であった。シンクロ練習の取り組みについて、同じチームならば一緒に練習することは可能であるが、離れているチームで行う場合どのような方法で合わせる練習をしているのか、多岐選択法より「イ、秒数を測る」に該当した選手は 36 名(全体の 80%に相当)であった。「ロ、ビデオを見る」に該当した選手は 4 名(全体の 4%の相当)であった。「ハ、相手選手の練習場に行く」に該当した選手は 27 名(全体の 60%に相当)であった。「ニ、自分の練習場に来てもらう」に該

当した選手は 19 名(全体の 42%に相当)であった。「ホ、その他の方法(公式練習、合宿で合わせる)」に該当した選手は 5 名(全体の 11%に相当)であった。次に、海外の選手からシンクロを組みたいとのアプローチを受けた場合、45 名中「はい」と答えた選手は 22 名(全体の 49%に相当)であり、「いいえ」と答えた選手は 23 名(全体の 51%に相当)であった。

考察

多岐選択法をとった結果、「イ、秒数を測る」という方法を全体(45 人)の 80%の選手が取り入れていることから、この方法は極めて遠隔地ペアに対する有効な方法であると考えられる。一方、「ロ、ビデオ活用」をする選手は全体の 9%しかいなかったことから、ビデオを活用することで得られる、技の「こなし」や「離し」といった相手選手のくせや情報を得ることよりも、シンクロナイズドトランポリンの一番の魅力である同時性を意識した練習を主に行っているのではないかと推察できる。海外選手からのアプローチについて、組んでみたいと思う選手は全体の 49%(22 名)、反対に組みたくないと思った選手は 51%(23 名)であった。さらに、これを男女で比較したところ、女子選手(全体の 68%)のほうが男子選手(30%)に比べ、希望する選手の割合が高いことを示した。その理由として「何事も経験である」や「自分のプラスになりそうだから」、「高難度でシンクロしてみたいから」など前向きな気持ちが女子選手には多かったからであろう。一方、男子選手では「コミュニケーションが出来ないから」という理由が多く、男女の感情の差が明らかになった。試合前のシンクロ機会の有無において男子選手の 65%の選手が事前に練習する機会を設けている。以上 2 つの結果から男子選手は女子選手に比べ、ペアを組む上でタイムを測ることや情報交換をすることも重要ではあるがそれよりもさらに、ペアの選手と直接的に接触することを重要視していることが示唆された。

結論

シンクロナイズドトランポリンにおいて遠隔地ペアを成立させる最も有効な方法は、お互いに技の秒数を測ることである。この方法を用いれば、たとえ地球の裏側の選手ともペアを組むことで高い競技成績を残せる可能性がある。